

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

April 2022 vol.96

April						
S	M	T	W	T	F	S
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

◆ 築水池

所在地：春日井市廻間町

交通：JR 中央線「高蔵寺」駅 北 約 6.5km

ため池は、農業用水の確保を主な目的として作られた池で、長い歴史を経て、地域の方々に親しまれる憩いの場としての機能や洪水調整など、多面的な機能を持つ農業用施設となっています。全国に約 17 万か所存在し、特に西日本に多く、愛知県では、大きな河川のない半島部や丘陵地に多く作られ、現在は 1,940 か所あります。

春日井市には、下原大池、築水池などの大規模なため池から、貯水量 1,000 m³未満の小規模なため池まで、67 か所のため池が残っています。江戸初期の「寛文覚書」では 54 か所、後期の「尾張徇行記」では 78 か所とされ、平成 13 年には 119 か所存在しました。西部の丘陵地域では用水を利用するようになり、ため池は埋め立てられ、徐々に減少していますが、東部山地には小規模の池が多く残り、丘陵地の西山町、東山町、大泉寺町には比較的大きな池も残っています。貯水量の多い池は、江戸時代に作られた下原大池（2018.10 月号参照）、与兵池、明治時代に東部山地の谷合いを 10m 以上の高い堤防で堰止めて貯水し築造された、築水池や五ヶ村池などとなっています。

廻間町の築水池は、春日井市で最も広い集水面積（約 110ha）、3 番目となる貯水量（22 万 9 千 m³）を誇る、規模の大きなため池です。築水池ができるまでの廻間町一帯は、大谷山系のため池を水源とした大谷川が内津川に沿って流れていましたが、水源のため池の治水設備の不備からたびたび出水により堤防が切れ、下流の農地で被害が繰り返

返されてきました。こうしたことから、明治 34 年に神坂村大字廻間の鈴木實太郎、鈴木新八が発起人となって、長さ 60m、高さ 30m の堰堤築造を県に請願し許可を受け、工事が始まります。満水時には水面東西およそ 250m、南北およそ 500m の広さに及び大規模なため池の築造には、県費 8,000 円余、民費 2,000 円余の 1 万円余りが投入され、翌 35 年に竣工しました。工事の結果、築水池を水源とした大谷用水は内津川に合流して南に流れるようになり、近隣の村々も含め、600ha もの田を潤すこととなりました。

堤防をつき固める工事は、作業に携わる人々が 1 本ずつき棒を持ち、「千本つき唄」に合わせて棒と足でつき固める「千本つき」と呼ばれる人海戦術で行われ、多くの人々の尽力により池の完成に至っています。この築水池築造の偉業をたたえ、後世に伝えるべく、池の南、少年自然の家キャンプ場の下に、明治 35 年に治水碑が建立されました。

東日本大震災後に愛知県によって行われた大規模なため池の耐震性調査により、築水池は耐震性が不足することが指摘されました。これを受け、耐震補強工事が行われ、平成 26 年度に完成しています。なお、ため池が満水の状態で、地震などにより万が一堤防が決壊した場合に、氾濫した水がどのように広がり、どの程度の深さになるのかを示したハザードマップが、春日井市により作成されています。（<https://www.city.kasugai.lg.jp/shisei/1009248/nougyo/1009335.html>）



治水碑

砂防に関する石碑HPより



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 築水池の周辺には…

● はさみいけ 鋏池

所在地：春日井市大泉寺町

交通：JR 中央線「神領」駅 北 約 2km

鋏池には改修記念碑や水神碑など、多数の碑が建立されています。改修記念碑には、明治 24（1891）年の濃尾地震によって、大泉寺新田の池が崩れたこと、地方税と国庫金の補助を受けて修復したことが記されています。



● 下原大池

所在地：春日井市西山町

交通：JR 中央線「神領」駅 北西 約 3.5km

春日井市では新田開発が進んだ江戸時代のために池が造られ、明治 24 年の濃尾地震で多くが被害を受けました。下原の大池は被害を受けたため池のひとつで、堤防の復旧工事を記念して改修記念碑が建てられています。



● 八幡社の鳥居（春日井市東野町）

所在地：春日井市東野町 交通：JR 中央線「神領」駅 北西 約 2.5km

東野町の八幡社の鳥居には、明治 24 年の濃尾地震で被災し、政府の団体移住奨励により、北海道の生振村などに移住した、団体移住関係者 9 名の名前が刻まれています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ サボテンフェア

春日井市では、昭和 28 年頃に桃山地区でサボテンの栽培が始まり、昭和 34 年の伊勢湾台風で果樹園が壊滅的な被害を受けたことをきっかけに、本格的に栽培が行われるようになりました。

4 月の第 1 土曜・日曜には、落合公園でサボテンフェアが開催され、毎年多くの愛好家が集まります。フェアでは、様々な色や形のサボテンが出展され、寄せ植え体験やサボテンの購入もできます。また、サボテンラーメンやサボテン焼きそばなど、サボテン料理が楽しめるほか、お菓子などの特産品、グッズなども購入できます。（2021 年・2022 年は、3 月にミニサボテンフェアが企画され、サボテンを使用した総菜やおやつ、観賞用のサボテンなどが披露されました。）



あいちの農産物

ふきは数少ない日本原産の野菜で、全国に自生し、野生種を含め、200 種以上あるとされます。愛知県で栽培されるふきは「愛知早生ふき」とそこから選抜した「愛経 2 号」で、いずれも愛知の伝統野菜に認定されています。知多半島を中心に明治時代の中頃から栽培され、収穫量は日本一です。愛知産のふきは軟らかく食べやすいのが特徴で、煮物やサラダ、かき揚げなど、広く用いられます。



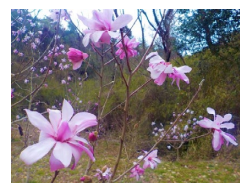
愛知県 HP より

● ブレイクタイム ●

♪ シデコブシ

シデコブシは、モクレン科に属する日本固有種で、東海 3 県の限られた地域のみで自生しています。近年、生育環境の悪化などにより絶滅が危惧されており、春日井市でも、かつては、東部丘陵の湿地や沢筋の各所で自生していましたが、現在では、限られた地域でしか確認できません。

築水池には、100 株以上が群落をなして生育しているシデコブシ自生地があり、市の天然記念物にも指定されています。白色や桃紅色の大きな花は、3 月末から 4 月初めにかけて見頃を迎えます。



春日井市少年自然の家HPより

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2022 年 4 月）